

# 2015年度経営プラン

2015年5月11日  
古河電気工業株式会社

## 将来情報についての注意事項

この資料に記載されております売上高及び利益等の計画のうち、過去または現在の実事に関するもの以外は、当社グループの各事業に関する業界の動向についての見通しを含む経済状況、ならびに為替レートの変動その他の業績に影響を与える要因について、現時点で入手可能な情報をもとにした当社グループの仮定及び判断に基づく見通しを前提としております。

これら将来予想に関する記述は、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しており、例として以下のものが挙げられますが、これらに限られるものではありません。

- ・米国、欧州、日本その他のアジア諸国の経済情勢、特に個人消費及び企業による設備投資の動向
- ・米ドル、ユーロ、アジア諸国の各通貨の為替相場の変動
- ・急速な技術革新と当社グループの対応能力
- ・財務的、経営的、環境的な諸前提の変動
- ・諸外国による現在及び将来の貿易規制等
- ・当社グループが所有する有価証券等の時価の変動

従いまして、実際の売上高及び利益等と、この資料に記載されております計画とは大きく異なる場合があることをご承知おき下さい。なお、当社グループは、この資料の本リリース後においても、将来予想に関する記述を更新して公表する義務を負うものではありません。

## 著作権等について

この資料のいかなる部分についてもその著作権その他一切の権利は、古河電気工業株式会社に帰属しており、あらゆる方法を問わず、無断で複製または転用することを禁止します。

古河電気工業株式会社

- **2014年度決算概要**
- **2015年度業績予想**
- **2014年度の総括及び2015年度の経営方針**
- **Appendix**

# 2014年度決算概要

取締役 財務・調達本部長  
荻原 弘之

# 要約P&L

(単位：億円)

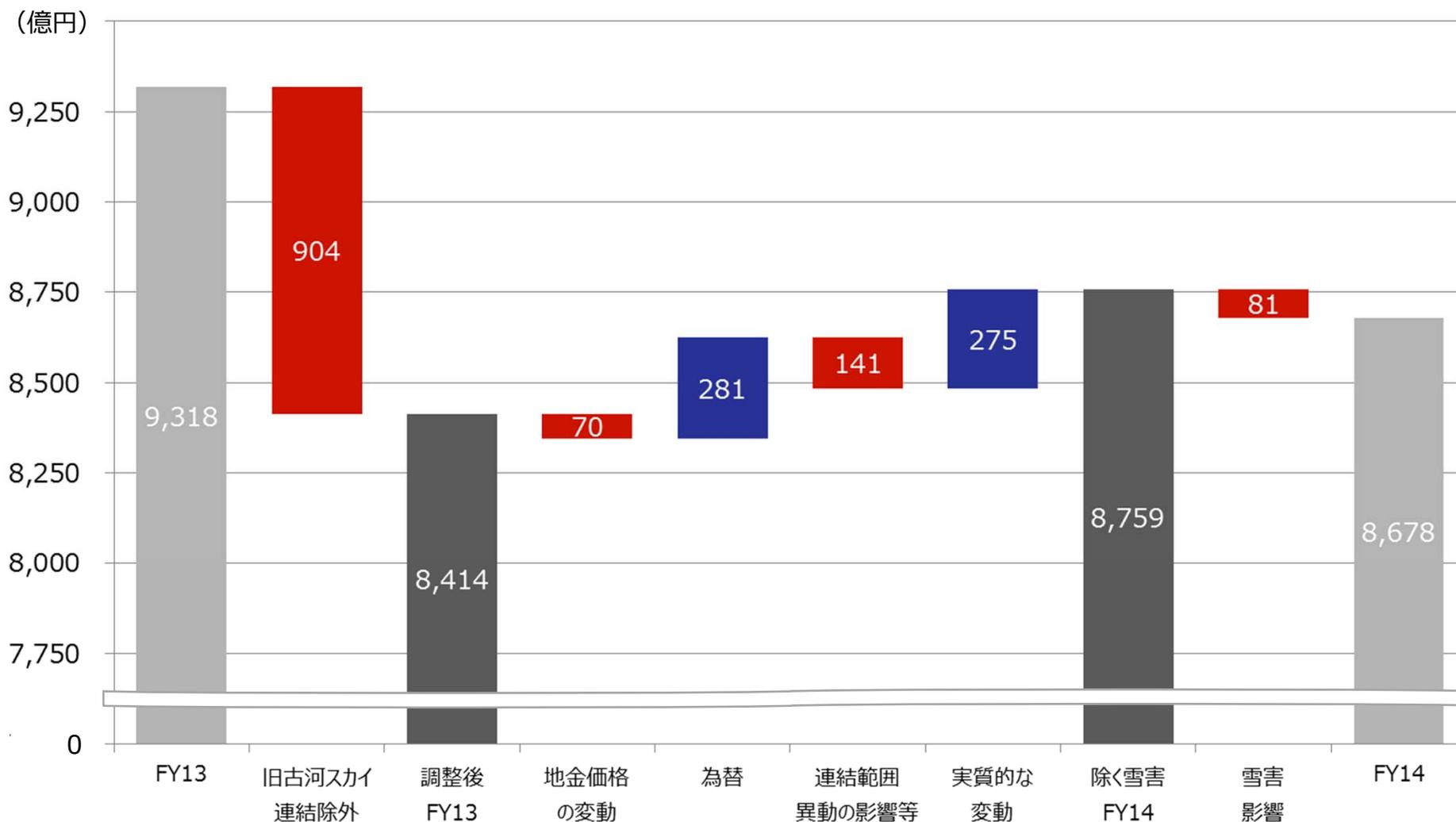
	FY13		FY14		前同比増減		増減の内訳
	a	Q4 b	c	Q4 d	c-a	d-b	
売上高 (率)	9,318	2,386	8,678	2,355	△ 640 -6.9%	△ 31 -1.3%	7ページ参照
営業利益 (率)	255	78	179	77	△ 76 -29.8%	△ 1 -1.9%	8ページ参照
持分法投資損益	△ 8	△ 36	19	△ 3	27	32	
為替損益	20	4	△ 1	△ 3	△ 21	△ 7	
経常利益 (率)	255	44	186	64	△ 69 -27.2%	20 46.7%	
特別損益	△ 82	△ 6	△ 24	24	58	30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特別利益：+67</li> <li>投資有価証券売却益 他</li> <li>・ 特別損失：△9</li> </ul>
法人税等	90	42	67	36	△ 23	△ 5	
少数株主利益	27	10	21	6	△ 5	△ 4	
当期純利益 (率)	56	△ 14	74	46	17 31.1%	61 -	

# 旧古河スカイ関連の補正

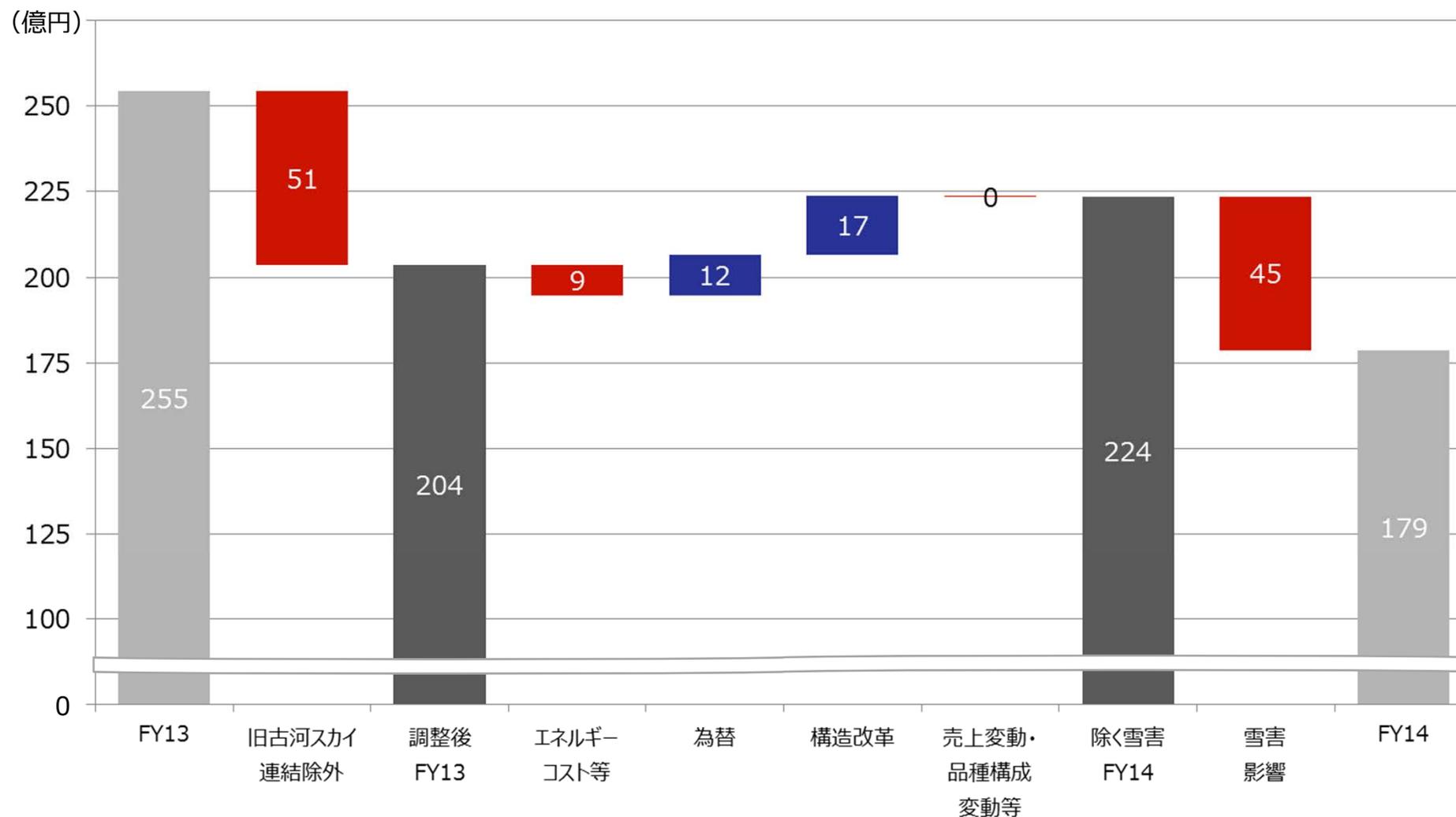
(単位：億円)

	FY13	FY14	前期比増減
	a	b	b-a
旧古河スカイ控除後 売上高 (率)	8,414	8,678	264 3.1%
旧古河スカイ控除後 営業利益 (率)	204	179	△ 25 -12.3%
持分法投資損益	△ 8	19	27
UACJ	24	25	1

# 売上高の増減要因（前期比）



# 営業利益の増減要因（前期比）



# Intentionally Blank

---

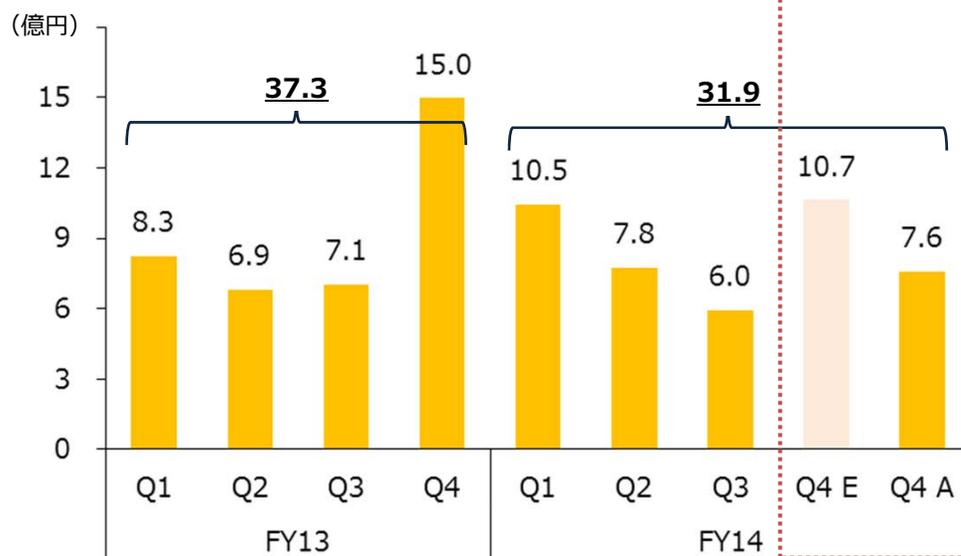
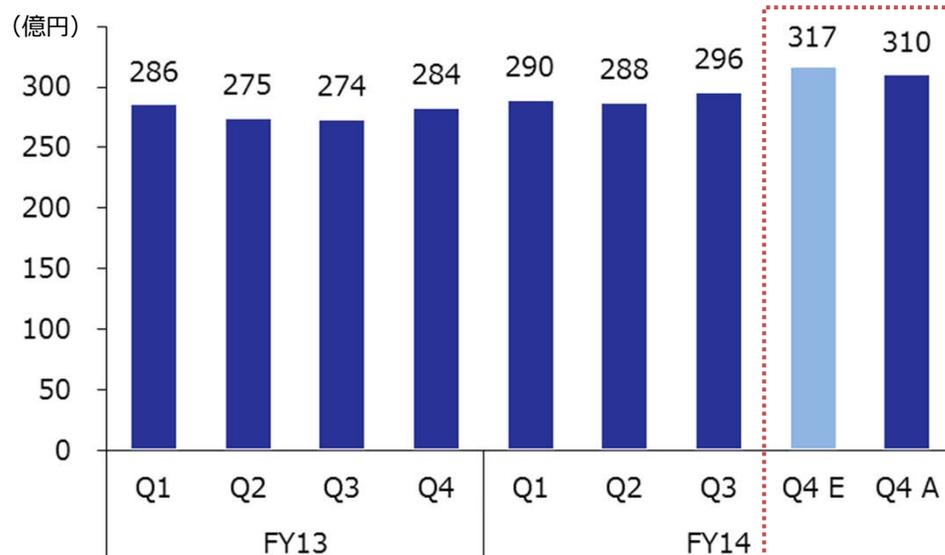
# セグメント別売上高及び営業利益の推移

(単位：億円)

上段：売上高 下段：営業利益	FY13 実績	FY14 予想*	FY14 実績	前期比 増減	予想比 増減	14Q1	14Q2	14Q3	14Q4
	a	b	c	c-a	c-b	-	-	-	-
情報通信	1,539	1,565	1,552	14	▲ 13	377	374	387	415
光ファイバ・ケーブル	1,118	1,190	1,183	65	▲ 7	290	288	296	310
フォトニクス・ネットワーク	421	375	369	▲ 52	▲ 6	87	86	91	105
エネルギー・産業機材	2,989	2,930	2,932	▲ 57	2	712	704	741	774
電装・エレクトロニクス	2,910	3,080	3,082	172	2	708	737	779	858
金属	1,307	1,325	1,337	30	12	308	343	334	353
軽金属	966	-	-	-	-	-	-	-	-
サービス・開発等	441	535	535	94	0	121	134	137	143
<b>売上高</b>	<b>9,318</b>	<b>8,670</b>	<b>8,678</b>	<b>▲ 640</b>	<b>8</b>	<b>2,043</b>	<b>2,106</b>	<b>2,175</b>	<b>2,355</b>
情報通信	78	65	57	▲ 22	▲ 8	14	11	15	16
光ファイバ・ケーブル	37	35	32	▲ 5	▲ 3	11	8	6	8
フォトニクス・ネットワーク	41	30	25	▲ 16	▲ 5	3	4	9	8
エネルギー・産業機材	17	40	43	26	3	5	10	10	18
電装・エレクトロニクス	140	125	129	▲ 11	4	19	26	31	54
金属	▲ 31	▲ 50	▲ 49	▲ 19	1	▲ 6	▲ 16	▲ 16	▲ 12
軽金属	44	-	-	-	-	-	-	-	-
サービス・開発等	4	0	▲ 1	▲ 5	▲ 1	▲ 1	▲ 0	▲ 0	1
<b>営業利益</b>	<b>255</b>	<b>180</b>	<b>179</b>	<b>▲ 76</b>	<b>▲ 1</b>	<b>31</b>	<b>31</b>	<b>39</b>	<b>77</b>

(注) FY14予想は2015年2月4日公表値

# セグメント概況 1-①光ファイバ・ケーブル



(注) 上段は売上高、下段は営業利益

## Q4営業利益の概況

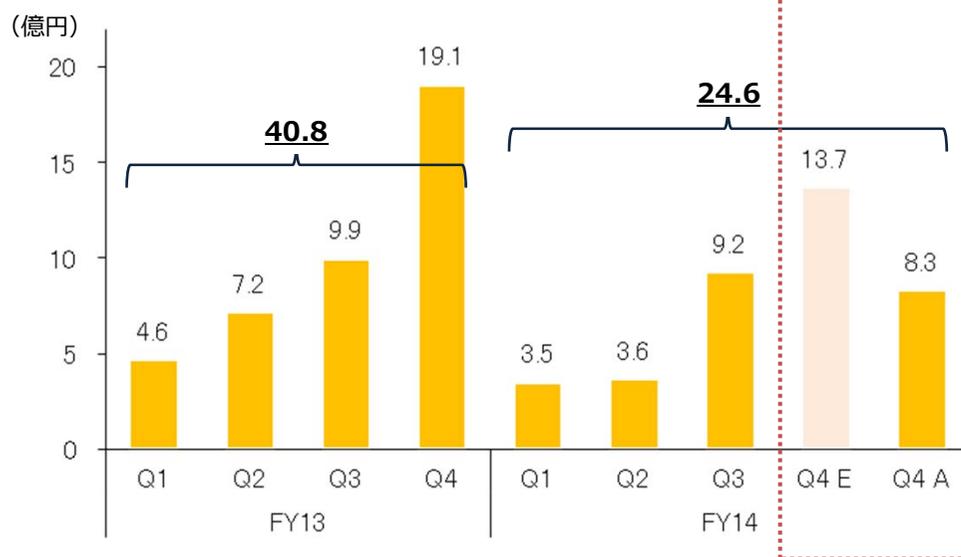
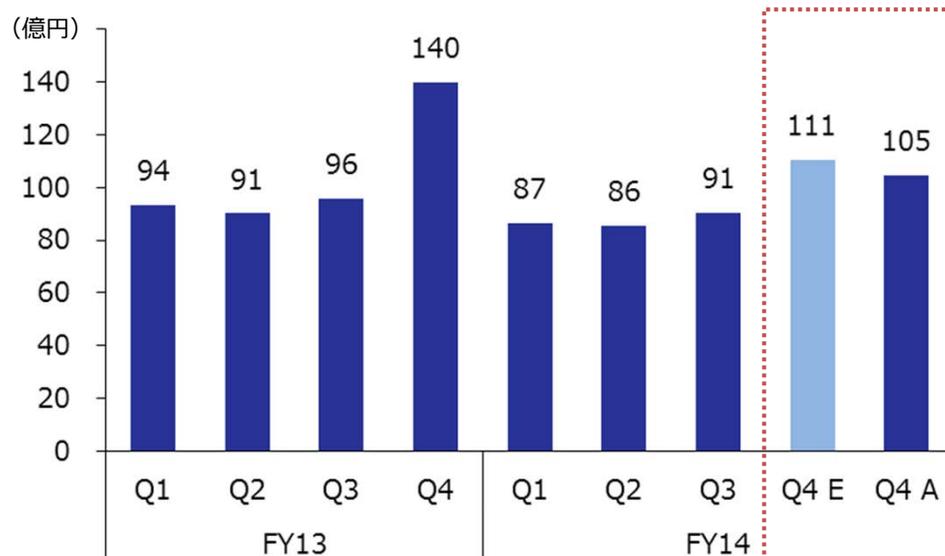
予想比：14Q4E⇒14Q4A ▲3.1億円

- 欧米のケーブル需要の好調を映し、米国OFSが上振れ
- 国内はケーブル需要が伸び悩み、改善効果の実現に遅れ

前同比：13Q4⇒14Q4 ▲7.4億円

- 欧米のケーブル需要は回復基調
- 国内のファイバは輸出中心に好調
- 国内のケーブル需要は低調続く
- 昨年同期における個別案件の収益の反動減

# セグメント概況 1-②フォトニクス・ネットワーク



## Q4営業利益の概況

予想比：14Q4E⇒14Q4A ▲5.4億円

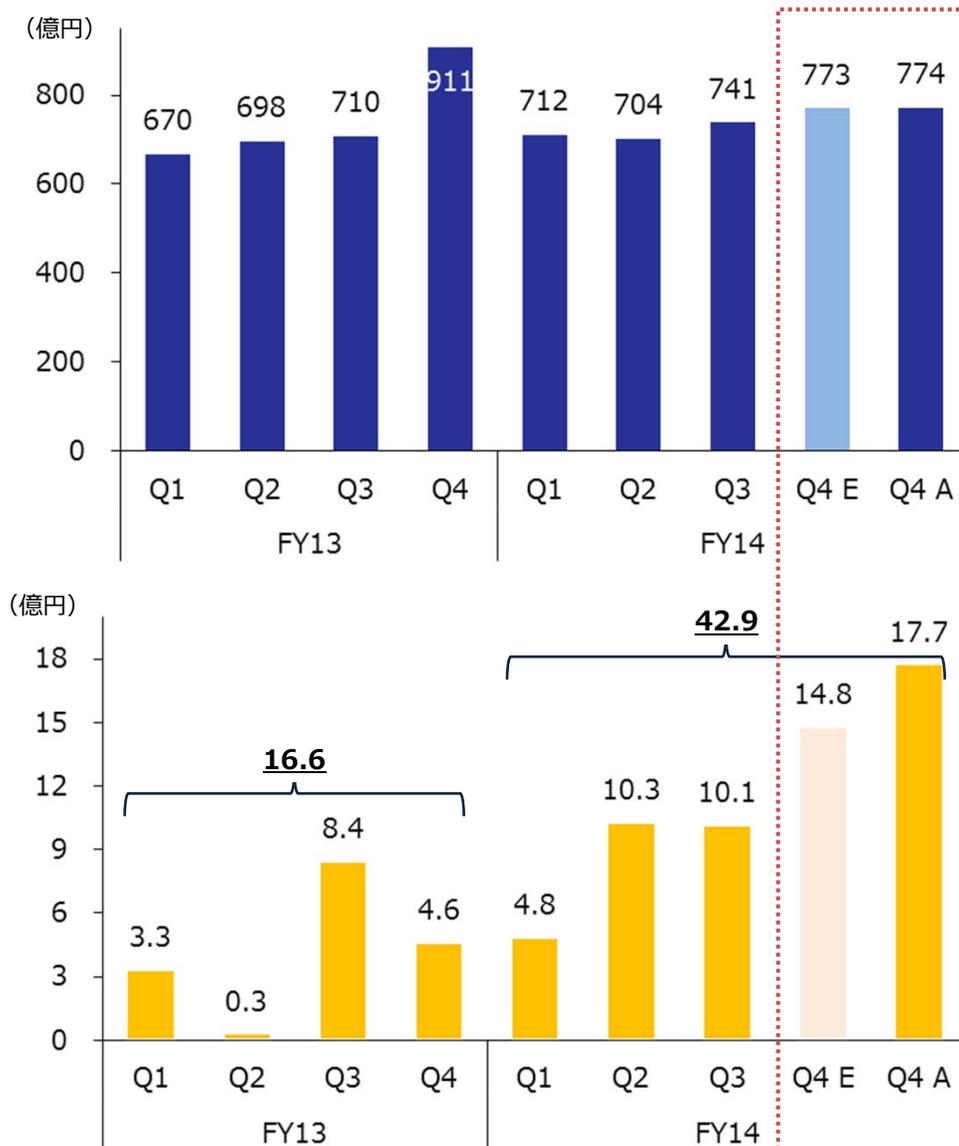
- デジタルコヒーレント関連製品は海外向けを中心に順調
- 汎用光部品・融着機の売上が低調

前同比：13Q4⇒14Q4 ▲10.8億円

- デジタルコヒーレント関連製品は需要増により売上が伸長
- 国内ネットワーク関連製品の需要は低調
- タイにおける携帯電話関連工事がピークアウト

(注) 上段は売上高、下段は営業利益

# セグメント概況 2-エネルギー・産業機材



(注) 上段は売上高、下段は営業利益

## Q4営業利益の概況

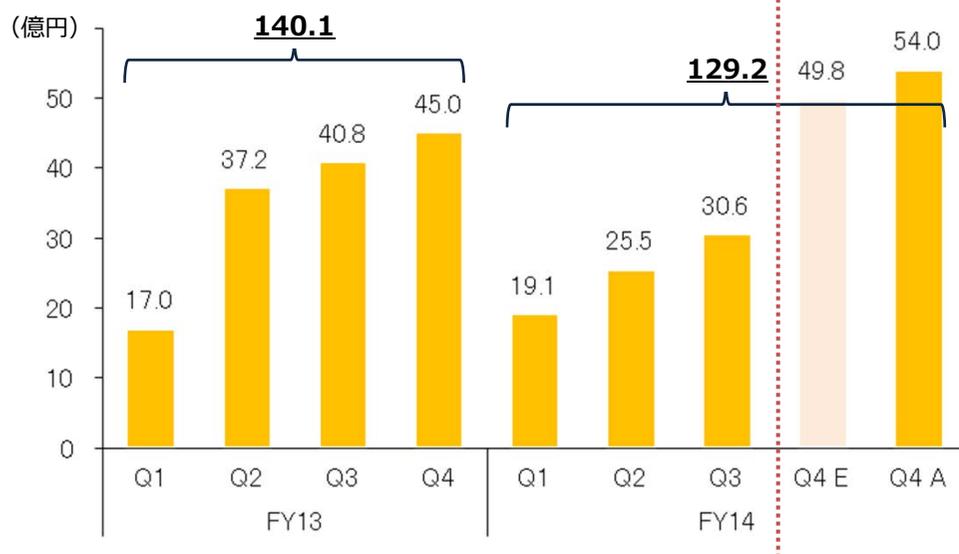
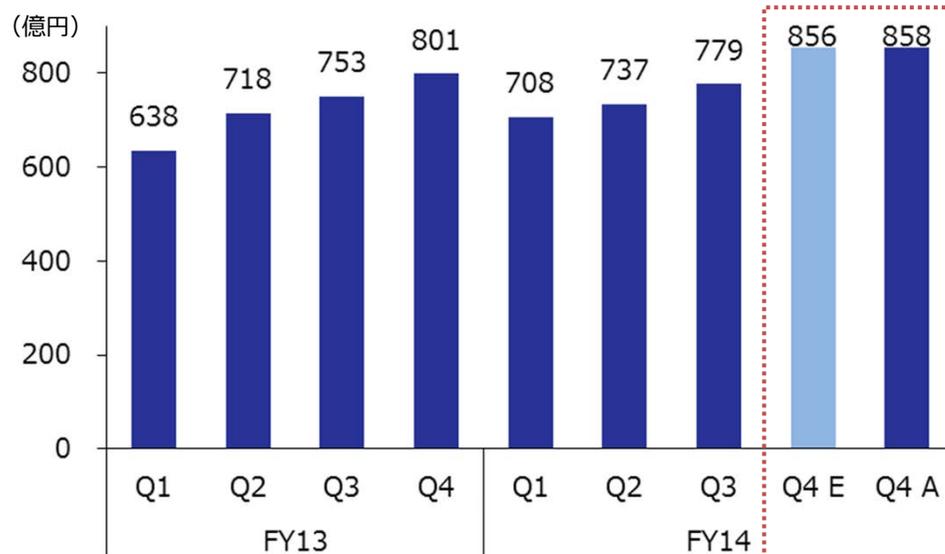
予想比：14Q4E⇒14Q4A +2.9億円

- 電力ケーブルでプロジェクト案件の売上
- スマートフォン向けの半導体製造装置用テープも好調で上振れ

前同比：13Q4⇒14Q4 +13.1億円

- 中国高圧ケーブルの瀋陽古河が構造改革により改善
- スマートフォン向けの半導体製造装置用テープの需要増などが貢献

# セグメント概況 3-電装・エレクトロニクス



## Q4営業利益の概況

予想比：14Q4E⇒14Q4A +4.2億円

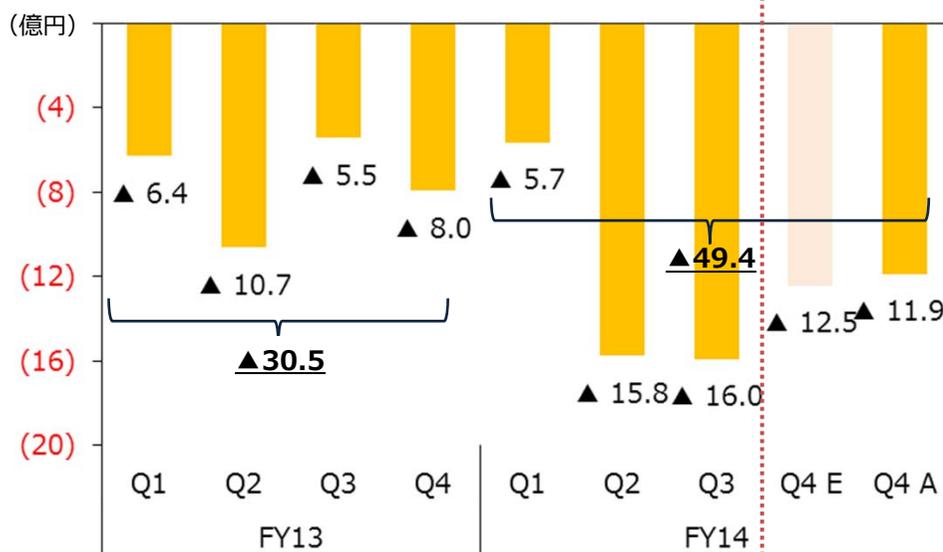
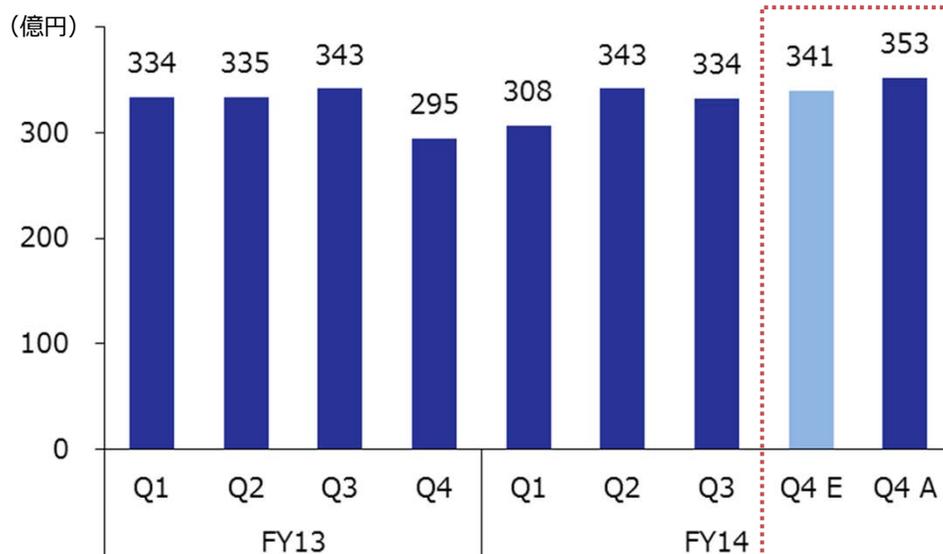
- データセンター向けのメモリーディスク材が上振れ
- 自動車部品は予想通り

前同比：13Q4⇒14Q4 +9.0億円

- データセンター向けのメモリーディスク材が好調持続
- 自動車部品は売上微増
- 電池は国内・タイともに増収効果が寄与

(注) 上段は売上高、下段は営業利益

# セグメント概況 4-金属



(注) 上段は売上高、下段は営業利益

## Q4営業利益の概況

予想比：14Q4E⇒14Q4A +0.6億円

- 銅条は予定通りに設備復旧
- 銅箔も低調ながらほぼ想定通りに推移

前同比：13Q4⇒14Q4 ▲3.9億円

- 銅条は設備復旧するも数量減が影響
- 銅箔は国内拠点の売上が減少したものの13年度末の減損効果により改善

# 要約B/S 他

(単位：億円)

	13Q4末	14Q3末	14Q4末	増減	主な増減
	a	b	c	c-a	
総資産	7,148	7,650	7,341	193	為替の円安による増加、 雪害対応に伴う影響
有利子負債	2,779	3,105	2,745	△ 33	11年連続減少
自己資本比率	24.8%	24.8%	26.0%	1.2%	
D/Eレシオ	1.57	1.64	1.44	△ 0.13	
総資産回転率* (売上高／総資産)	1.17	1.10	1.18	0.01	
ROA (経常利益／総資産)	3.6%	2.1%	2.5%	-1.1%	

(注) 総資産回転率は旧古河スカイ分を控除

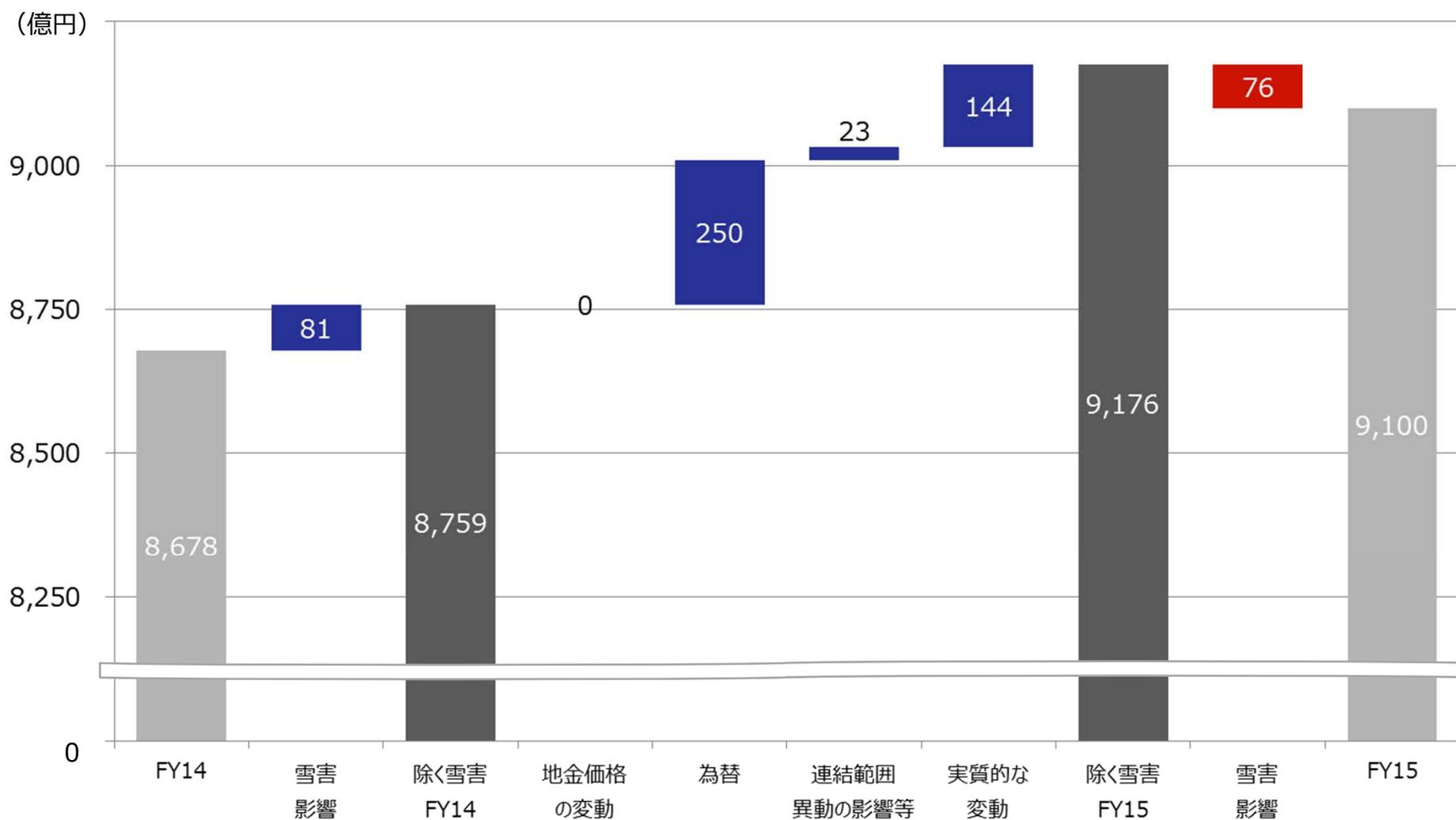
# 2015年度業績予想

# P&L予想

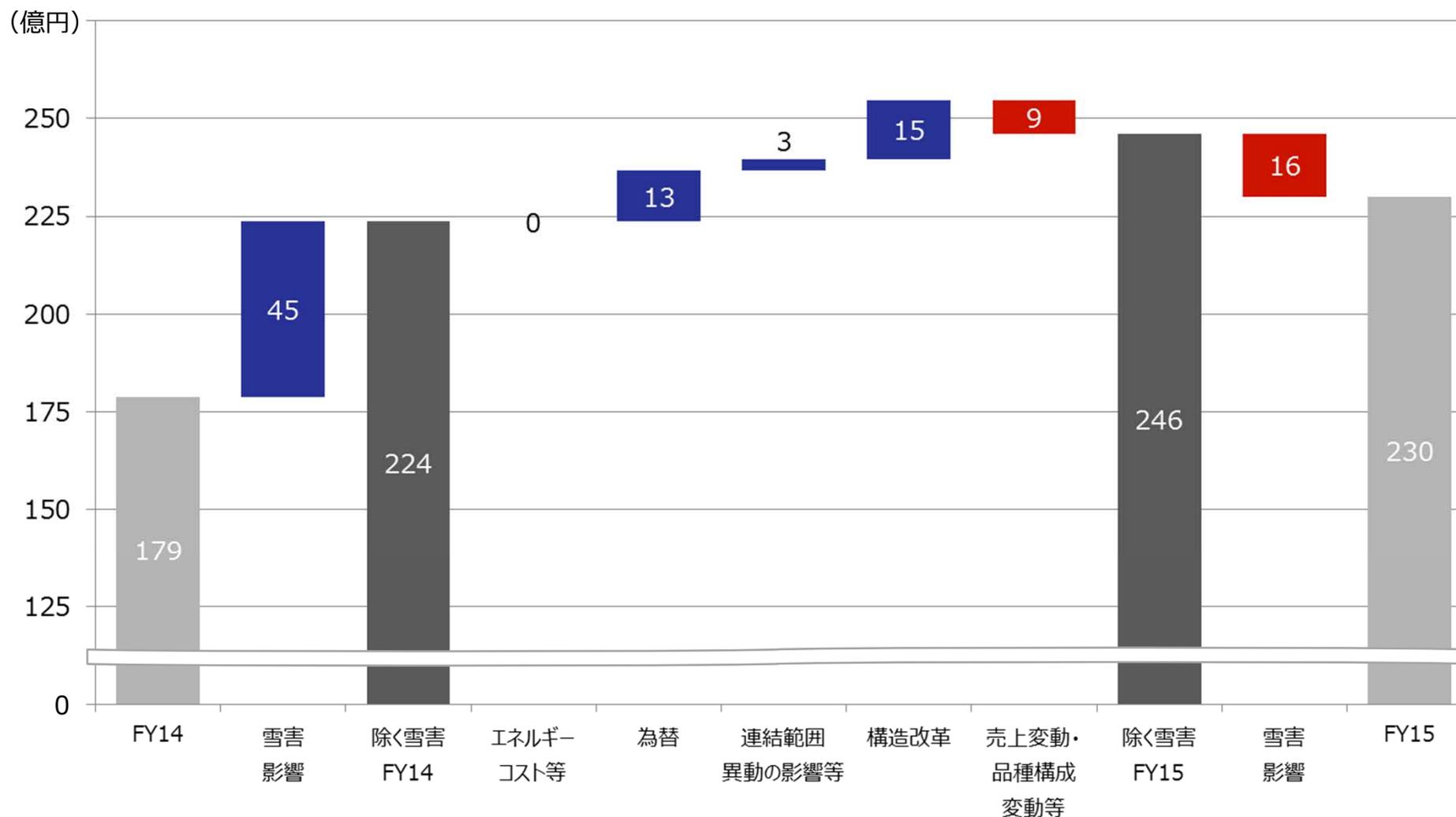
(単位：億円、円/kg、円/米ドル)

	FY14			FY15			前同比 増減	H1	H2
		H1	H2	予想	H1	H2			
	a	b	c	d	e	f	d-a	e-b	f-c
売上高 (率)	8,678	4,149	4,530	9,100	4,400	4,700	422 4.9%	251 6.1%	171 3.8%
営業利益 (率)	179	62	116	230	60	170	51 28.7%	△ 2 -3.8%	54 46.1%
持分法投資損益	19	10	9	-	-	-	-	-	-
為替損益	△ 1	△ 2	2	-	-	-	-	-	-
経常利益 (率)	186	72	114	230	55	175	44 23.7%	△ 17 -23.1%	61 52.9%
特別損益	△ 24	△ 34	10	△ 32	△ 23	△ 9	△ 8	11	△ 19
法人税等	67	17	50	-	-	-	-	-	-
少数株主利益	21	9	12	-	-	-	-	-	-
当期純利益 (率)	74	12	62	100	10	90	26 36.0%	△ 2 -13.5%	28 45.2%
銅建値 平均	765.8			760					
為替 平均	109.8			115					

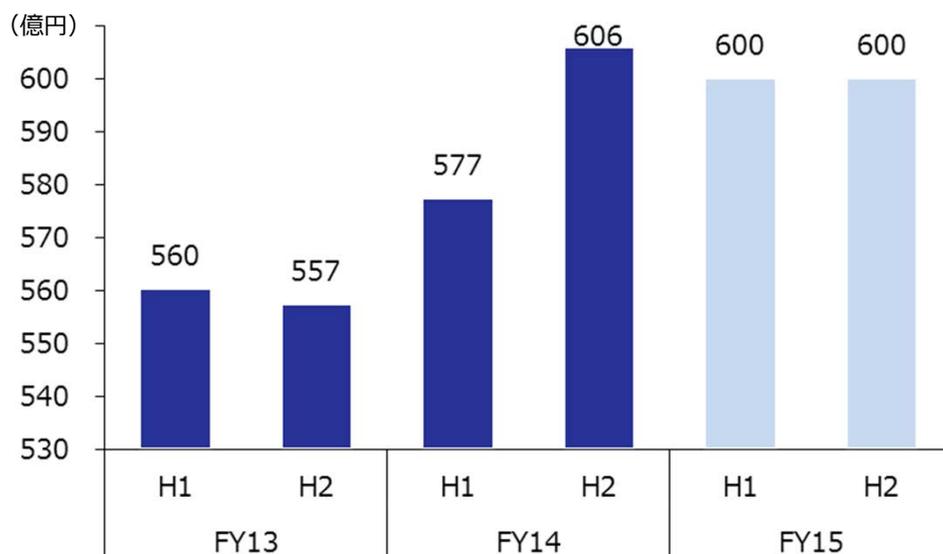
# 予想売上高の増減要因（前期比）



# 予想営業利益の増減要因（前期比）



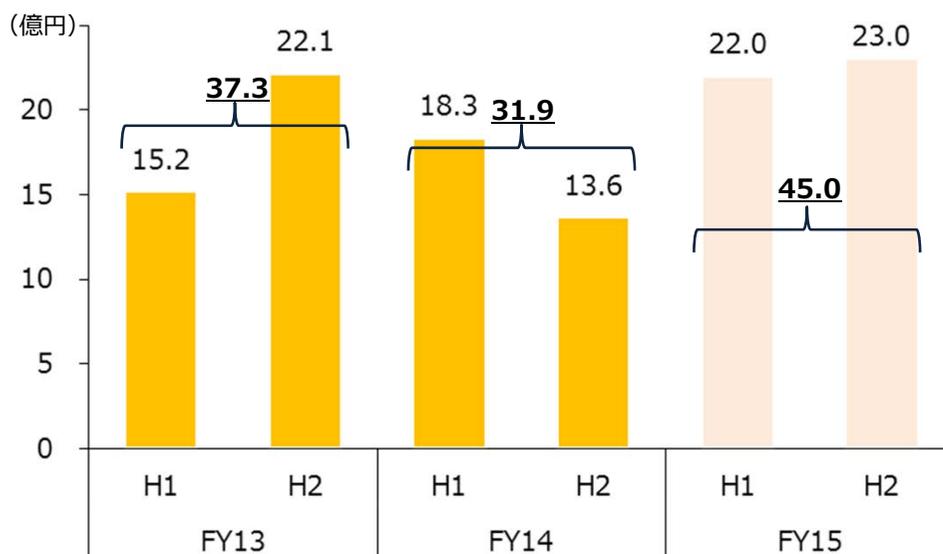
# セグメント予想 1-①光ファイバ・ケーブル



## 上半期の営業利益予想

前同比：14H1⇒15H1 +3.7億円

- 輸出ファイバの円安効果が寄与
- 国内光ケーブルの拠点集約効果が寄与
- 米国OFSの需要好調が継続
- ブラジルFISAはリアル安が影響



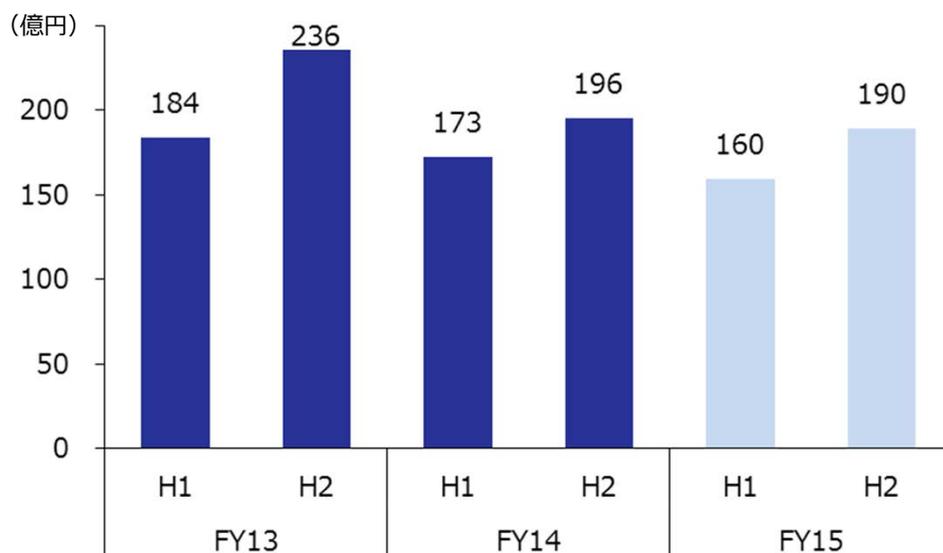
## 下半期の営業利益予想

前同比：14H2⇒15H2 +9.4億円

- 国内光ケーブルの拠点集約効果が寄与
- 米国OFS、輸出ファイバの需要は堅調

(注) 上段は売上高、下段は営業利益

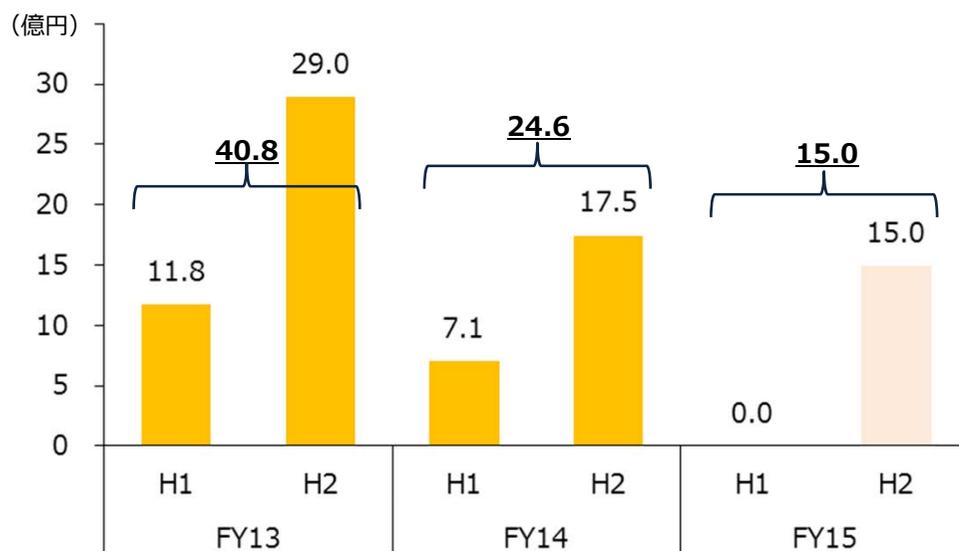
# セグメント予想 1-②フォトニクス・ネットワーク



## 上半期の営業利益予想

前同比：14H1⇒15H1 ▲7.1億円

- タイにおける携帯電話関連工事はピークアウト見込
- デジタルコヒーレント関連製品は伸長



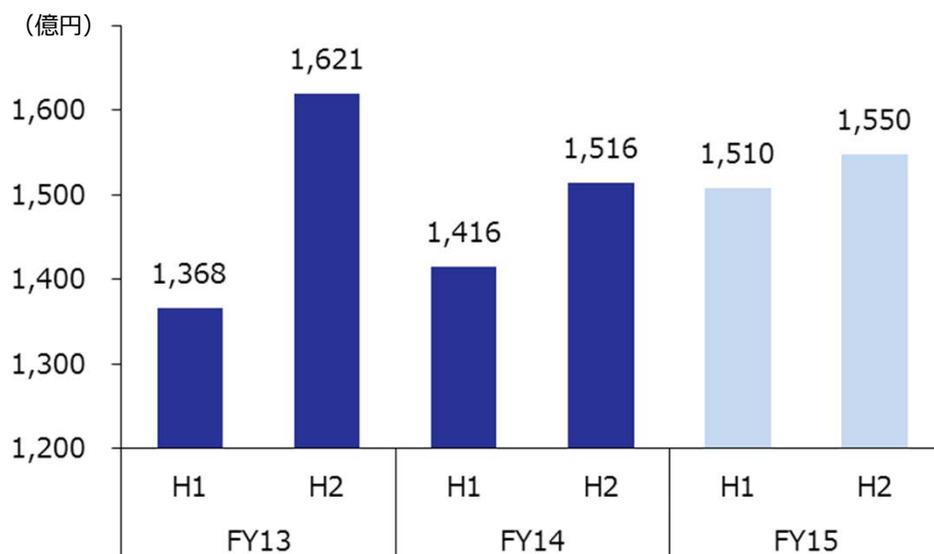
## 下半期の営業利益予想

前同比：14H2⇒15H2 ▲2.5億円

- デジタルコヒーレント関連製品が好調持続
- 融着機は新製品投入による増収
- 国内ネットワーク関連製品の需要は堅調
- タイにおける携帯電話関連工事はピークアウト

(注) 上段は売上高、下段は営業利益

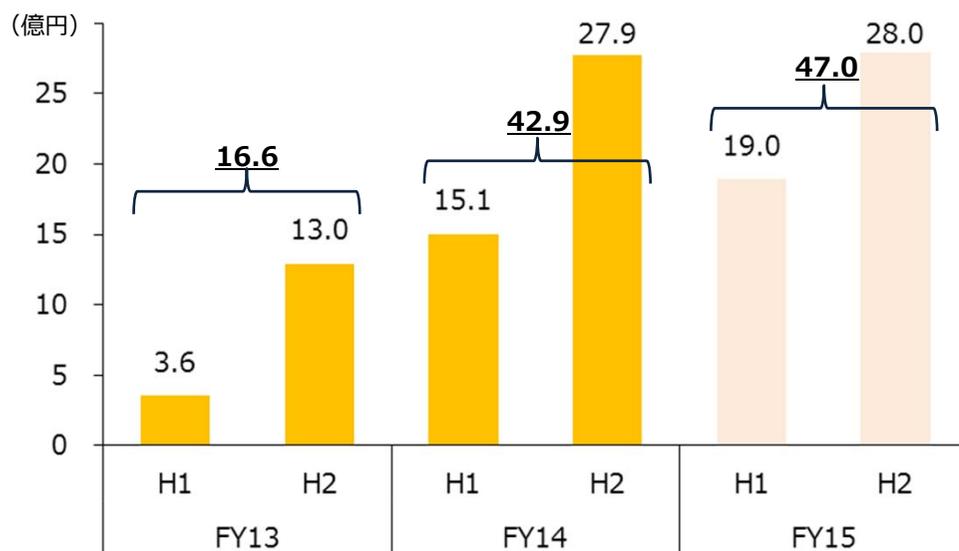
# セグメント予想 2-エネルギー・産業機材



## 上半期の営業利益予想

前同比：14H1⇒15H1 +3.9億円

- インドネシアにおける銅・アルミ線需要は伸長見込
- 機器用電線等の需要増



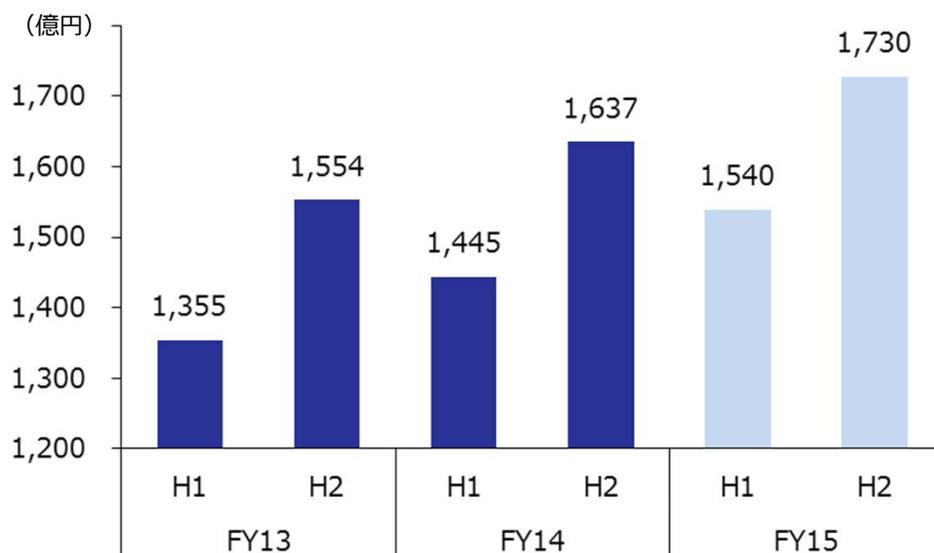
## 下半期の営業利益予想

前同比：14H2⇒15H2 +0.1億円

- 電力部品・機器用電線等の需要増
- FY14Q4に計上した電力ケーブル関連のプロジェクト案件による収益の反動減

(注) 上段は売上高、下段は営業利益

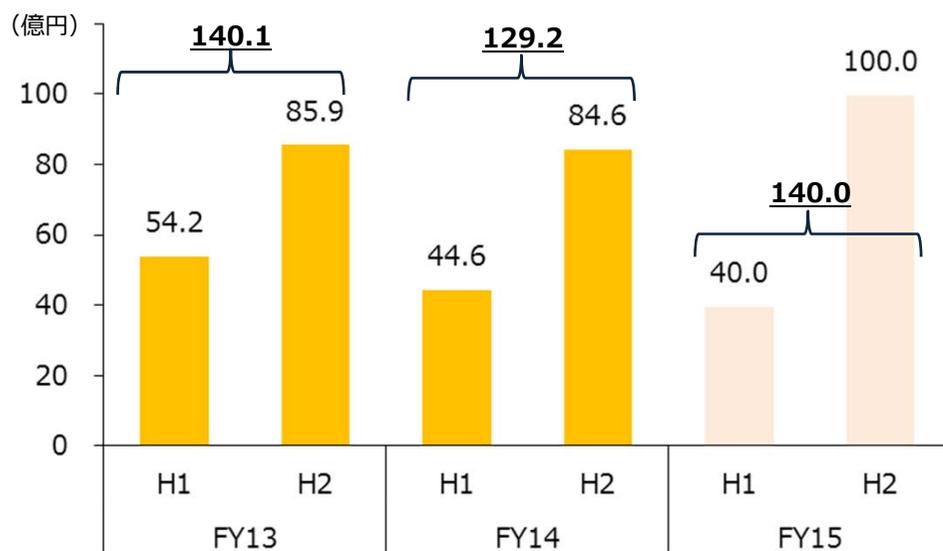
# セグメント予想 3-電装・エレクトロニクス



## 上半期の営業利益予想

前同比：14H1⇒15H1 ▲4.6億円

- 自動車部品が円安により輸入コスト増
- データーセンター向けメモリーディスク材は伸長継続



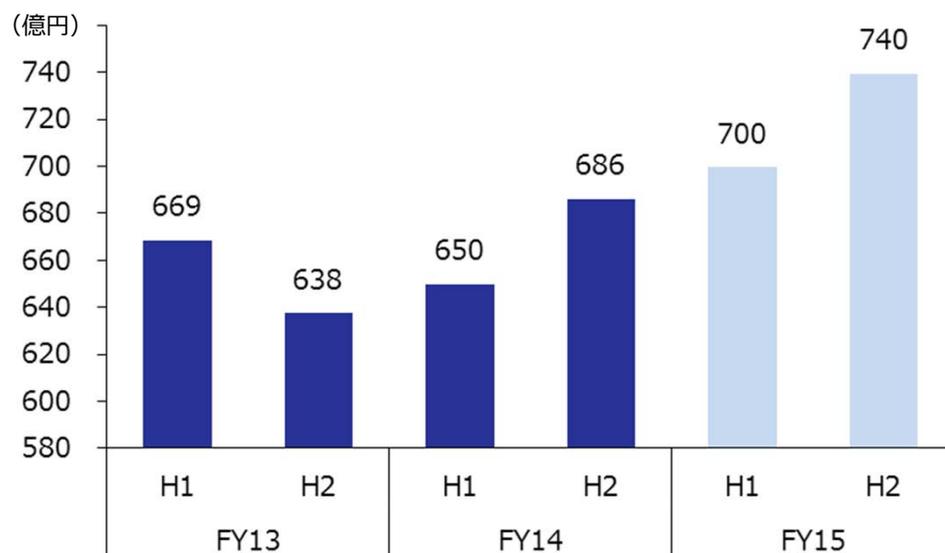
## 下半期の営業利益予想

前同比：14H2⇒15H2 +15.4億円

- 巻線、サーマル(放熱製品)は売上増
- メモリーディスク材は好調継続
- 自動車部品は売上増
- 電池の国内新工場の貢献、及びタイ電池市場の回復

(注) 上段は売上高、下段は営業利益

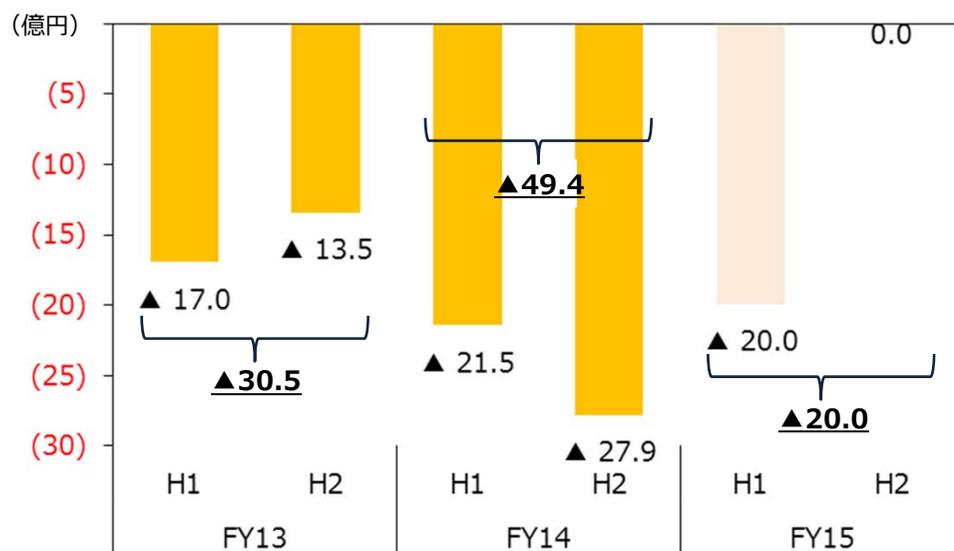
# セグメント予想 4-金属



## 上半期の営業利益予想

前同比：14H1⇒15H1 +1.5億円

- 銅条は日光工場の一貫生産再開により収益回復基調
- 銅箔は国内車載向けが需要減



## 下半期の営業利益予想

前同比：14H2⇒15H2 +27.9億円

- 銅条日光工場は、継続的な生産数量の増加により、Q4に営業黒字へ
- 銅箔は台湾における増収効果

(注) 上段は売上高、下段は営業利益

# 要約B/S予想 他

(単位：億円)

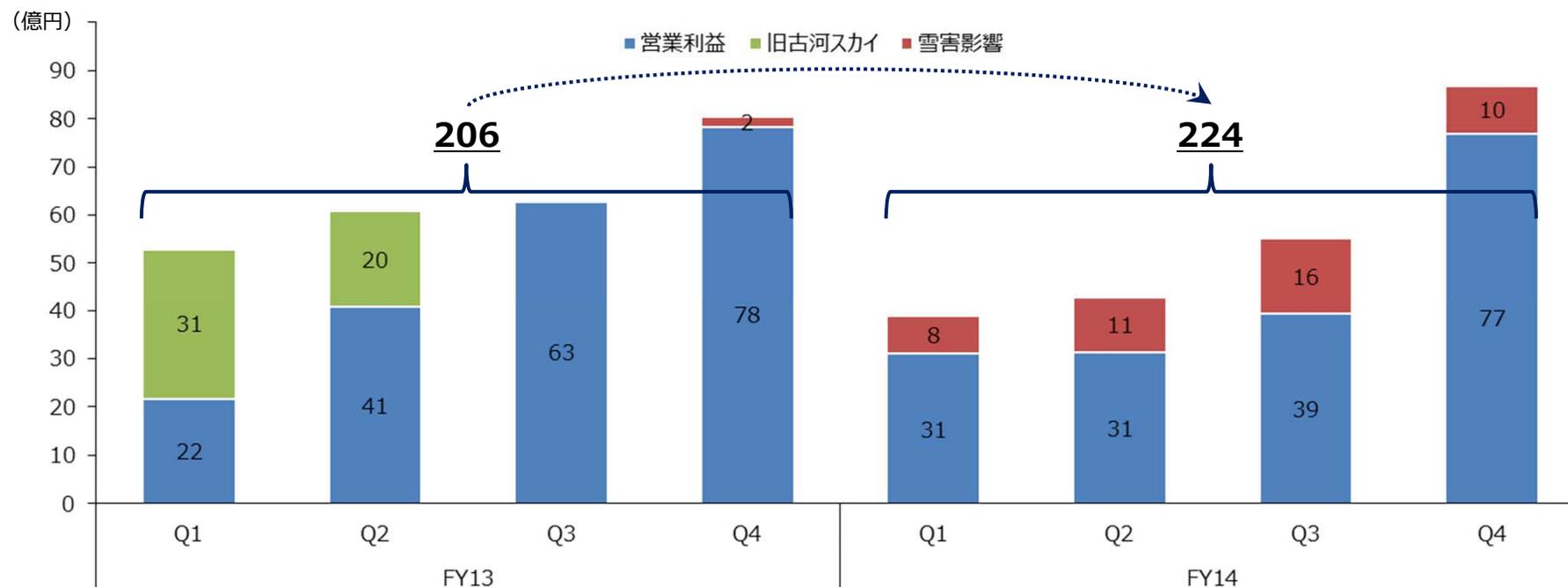
	14Q4末	15Q4末	増減	主な増減
	a	b	b-a	
総資産	7,341	7,500	159	売上増に伴う売掛金の増加
有利子負債	2,745	2,740	△ 5	
自己資本比率	26.0%	26.0%	0.0%	
D/Eレシオ	1.44	1.41	△ 0.03	
総資産回転率 (売上高/総資産)	1.18	1.21	0.03	
ROA (経常利益/総資産)	2.5%	3.1%	0.6%	
ROE	4.2%	5.1%	0.9%	
設備投資額	307	330	23	
減価償却費	225	255	30	

# 2014年度の総括及び 2015年度の経営方針

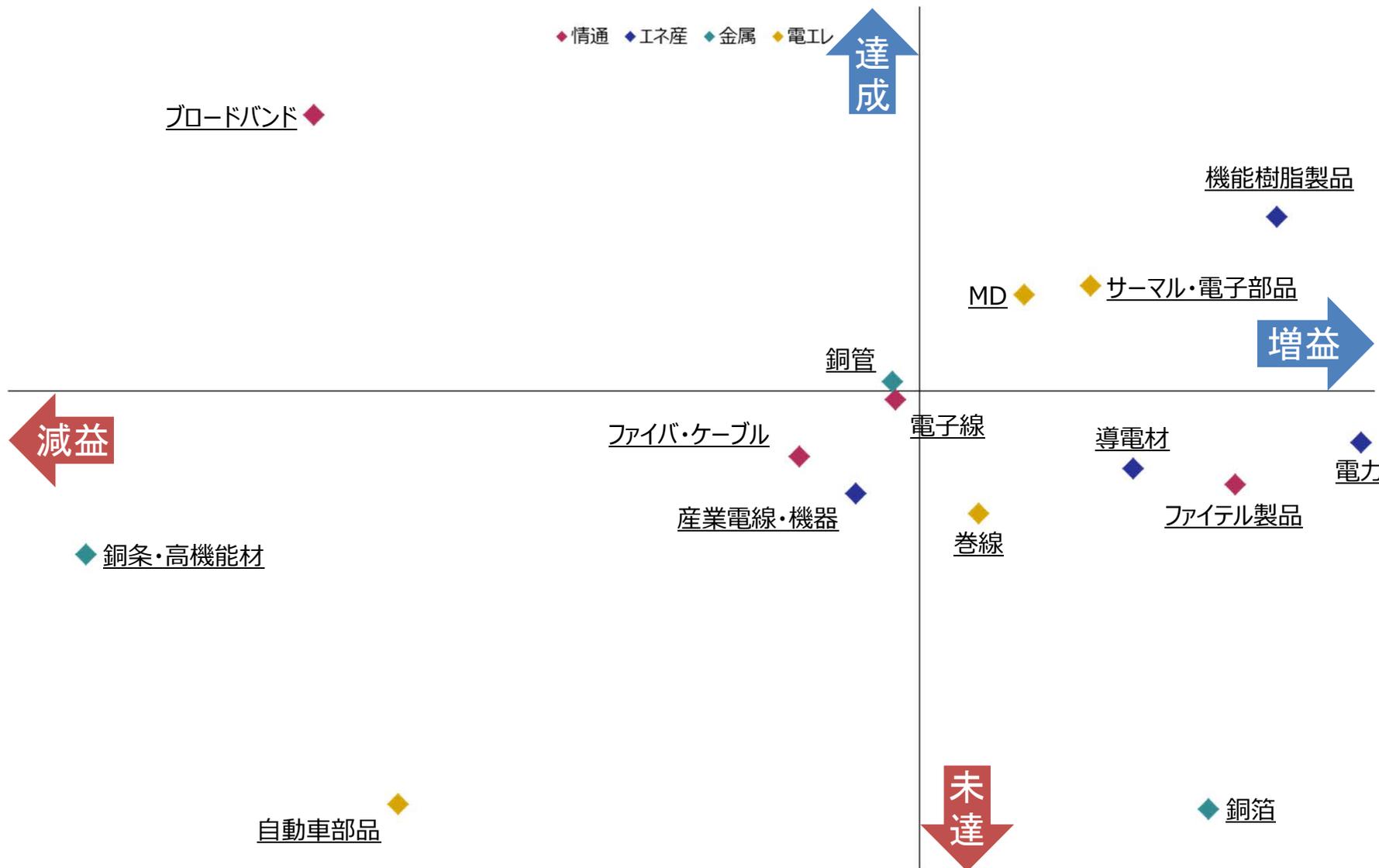
代表取締役社長  
柴田 光義

# 2014年度の総括

- 営業利益は期初予想を修正するも、修正後の公表予想水準で着地
  - 旧古河スカイ及び雪害の影響を控除すると、前年度比では増益
- 各個別事業の収益に関しては…
  - 国内課題事業においては改革効果が未実現
  - 海外事業・輸出は円安効果もあり好調
- 将来に向けた取り組みでは、'インフラ/自動車'分野のグローバル展開に布石



# 15SBUの2014年度営業利益



(注) 横軸は2013年度実績比増減、縦軸は2014年度期初予想比増減

# 2015年度の経営方針

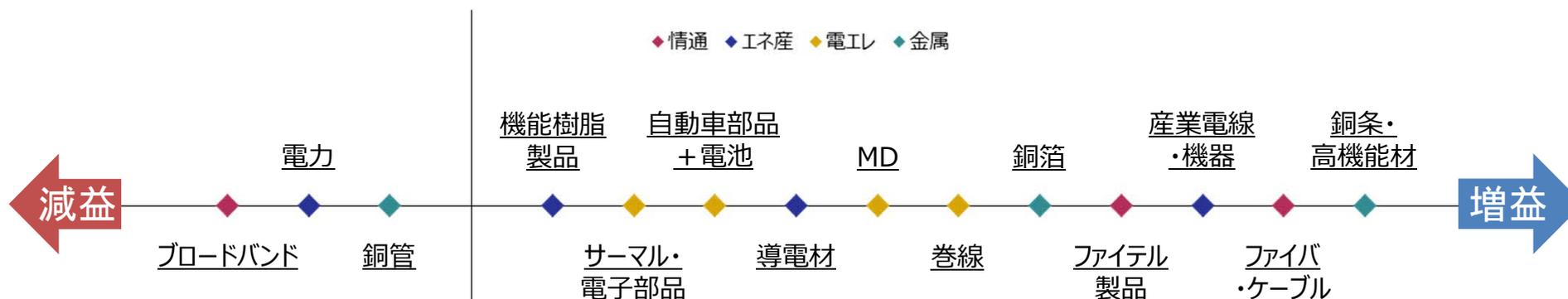
## ■ 国内事業の収益性改善を加速

- 銅箔  
：国内拠点の生産体制を縮小
- 銅条  
：数量回復によるQ4黒字化
- 情報通信  
：生産性の改善

## ■ “インフラ／自動車”分野でグローバル展開を加速

- 情報通信のグローバル拠点拡充
- 自動車部品事業の改善
- 電池事業の売上拡大

## ■ コーポレートガバナンスの強化



(注) 増減益は2014年度実績比営業利益増減

# 「銅箔」に関する収益改善策

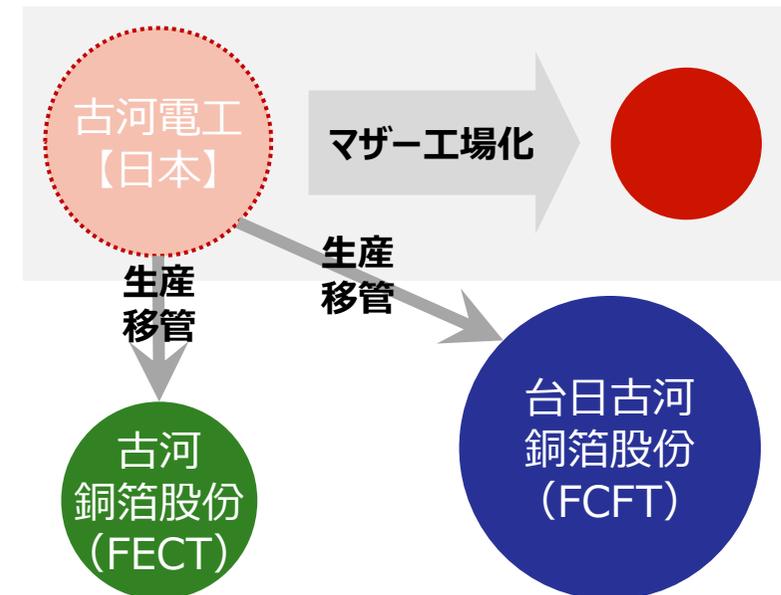
## これまで生産体制の最適化を推進

- 台湾への生産移管
- 高付加価値品へのシフト

国内の事業環境が悪化  
・ エネルギーコスト上昇  
・ 競争激化による価格下落  
台湾への生産移管にメド

## 国内工場をマザー工場へ

- 国内の生産体制を今年度中に半減
  - 同事業に従事する人員を160名削減
- 
- 更なる高付加価値製品への特化
  - 台湾における量産プロセスを構築



(注) 円の大きさは生産能力の相対感

# 「銅条・高機能材」の収益回復と今後の戦略

## 今年度営業利益の回復想定

### ■ 雪害影響の段階的解消により、銅条の営業利益への影響額は2014年度比24億円改善

- 生産数量は今年度を通じて回復基調を辿り、Q4には営業黒字へ
  - 三菱電機メテックスの一部商権獲得
  - めっき事業の事業部門内統合検討
- ITER(国際熱核融合実験炉)向け超電導線の供給を7月から開始

(単位：億円)

	FY14営業利益へのマイナス影響額			特別損失
	銅条	銅条以外		
Q1	8	6	2	7
Q2	11	10	1	6
H1	19	16	3	13
Q3	16	15	1	7
Q4	10	9	1	7
H2	26	24	2	13
FY14	45	40	5	26

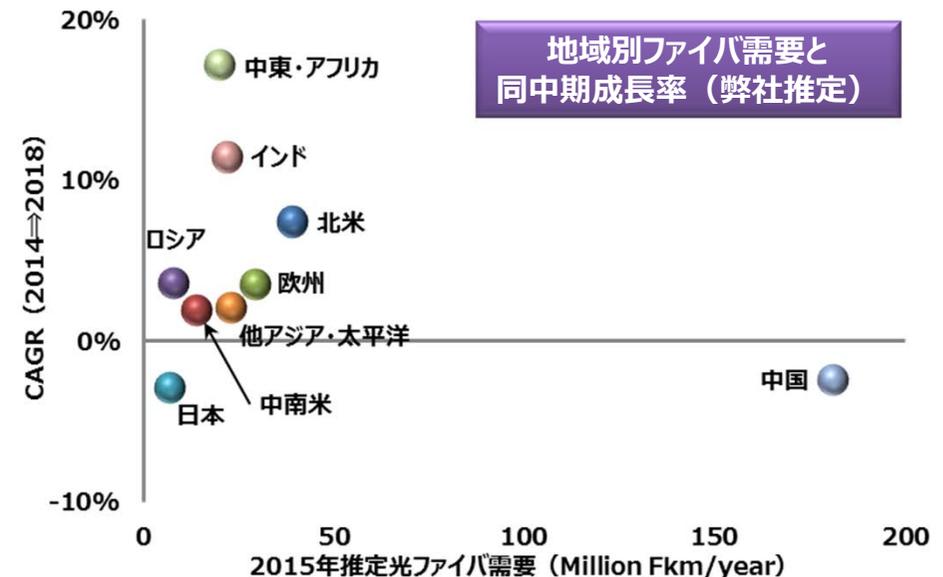
## 回復後の戦略

- 自動車向けを中心に売上を拡大し、継続的な収益性の改善を目指す
  - 新製品提案等により自動車向け製品比率を、雪害前(2013年度)の約4割から2017年度に約6割へ
  - 中国のAX社とOEM契約締結、海外向けに加工・販売増で貢献

# 「光ファイバ・ケーブル」における取り組み

## ■ グローバル事業環境

- 中東・アフリカ、インド、欧米において光ファイバ・ケーブルの需要が成長
- 欧州各国がFTTXプロジェクト推進
- 北米ネット企業が通信インフラ投資加速、大手キャリアも追随
- 日本、中国はマイナス成長見通し



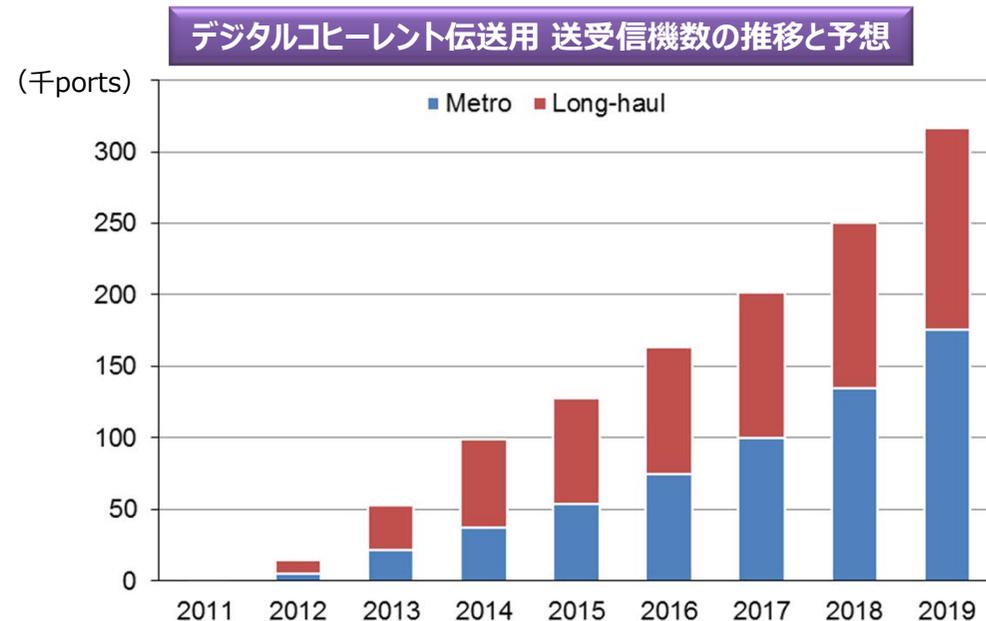
## ■ 拠点別の施策

- ケーブル拠点を成長地域毎に順次拡充
  - FISAコロンビアに次いでOFSロシアを拡充、アフリカ進出も準備中
- ファイバは三重で生産プロセス改良による20%の能力アップ、米国OFSでも需要に応じて順次実施、インドではライン増設により能力倍増
- 南米FISAに続きアジアにて、LAN、FTTHソリューションビジネスを展開
- 三重ではコストダウンの徹底により、収益力の改善に注力

# 「ファイテル」における取り組み

## ■ デジタルコヒーレント関連の成長

- 市場はロングホールに加えてメトロ領域も拡大
  - 市場の中期成長率は数量ベースで年率約25%
- キー部品のITLAで過半のシェアを確保、生産能力をさらに増強



## ■ 産業用途関連の拡大

- ファイバレーザ用レーザダイオード・モジュールの製販合併会社設立に、ファナック社と基本合意

## ■ パッシブ製品事業の損益改善

- 光コード・コネクタの生産をグループ内で集約
  - 東北アクセスケーブルを5月中に操業停止予定

(出所) OVUM

## 足許の事業環境への対応

- 急激な円安進行により国内向けワイヤーハーネス事業の収益は悪化
- 生産性の向上、コスト削減等、収益性の改善に注力

## 将来を踏まえた今年度の取り組み

### ■ 海外市場における展開

- 国内に比べて市場拡大が見込める海外、特に中国、東南アジア、北米において事業拡大
- 地域統括会社による受注、生産、納入までの最適化

### ■ 部品事業の拡大

- SRC(ステアリングロールコネクタ)
  - エアバックが義務化されるブラジル、インドでの市場参入に加え、新規欧州メーカーへの拡販に注力
- BSS(バッテリー状態検知センサー)
  - バッテリーを選ばない高機能タイプ、機能を抑えた廉価タイプを投入し、顧客の多様なニーズへ対応

## 2015年度の収益拡大のポイント

### ■ 自動車部門

- 国内：いわき事業所の新工場稼動による生産性改善効果
- 海外：タイでの設備投資と、キャンペーン実施による市販品の拡大

### ■ 産業部門

- インフラ・鉄道用蓄電池が2015年度も引き続き好調
- 2014年度に低調だった産業用大型鉛電池の復調

### ■ 新製品

- アイドリングストップ車用バッテリー  
「ECHNO[エクノ] IS UltraBattery」
- ハイブリッド車用補機バッテリー  
「ECHNO[エクノ] HV」
- 非常用・防災用マグネシウム空気電池「マグボックス」等



- 社外取締役を1名増員
  - 取締役12名中4名が社外取締役に
    - 上記の内、2名を独立社外取締役として届出
  
- 「指名・報酬委員会」の設置（2015年5月11日付）
  - 任意機関として設置していた「報酬委員会」の機能を拡大
    - 委員5名の内、3名を社外取締役とする
  
- 資本効率を重視した経営を志向

- 当社は、株主の皆様への適切な利益還元を経営の最重要課題の一つと位置づけており、長期的視野に立って今後の収益動向と財務状況を見据えつつ、将来の事業展開も考慮のうえ、安定的に配当を継続することを基本方針としております
- 内部留保資金については、これにより財務体質の改善を図りつつ、インフラ/自動車市場を中心とした成長戦略投資や、持続的成長に向けた基盤となる次世代新事業育成のための投資に充当して参ります

	2013年度 実績	2014年度 実績	2015年度 予想	増減
年間1株当たり 配当金	3.0 円	3.0 円	4.0 円	+1.0 円

# Appendix

## ■ 光ファイバ・ケーブルの欧州、アフリカ拠点を拡充

### 情報通信 / エネルギー

#### ロシア

- ： **光ケーブル工場を増設**  
**(2015年3月)**

#### アフリカ

- ： **光ケーブル工場の新設を準備中**

### 自動車

#### 中国

- ： 地域統括会社を設立 (2013年7月)
- ： ハーネス工場を新設 (2014年6月)

### 自動車

#### メキシコ

- ： ハーネス工場を新設  
(2013年12月)

#### ブラジル

- ： エアバック用コネクタの販売会社を設立  
(2014年7月)

### 自動車

#### タイ

- ： 地域統括新会社を設立 (2014年2月)

#### インド

- ： ハーネス工場を新設 (2013年11月)

#### フィリピン

- ： ハーネス工場を増設 (2014年2月)

#### インドネシア

- ： ハーネス工場を増設 (2014年2月)
- ： 鉛蓄電池合弁で工場を新設  
(2014年12月)

### 情報通信 / エネルギー

#### ブラジル

- ： 光ファイバの能力増強 (2014年10月)
- ： OPGWの本格量産化完了

#### コロンビア

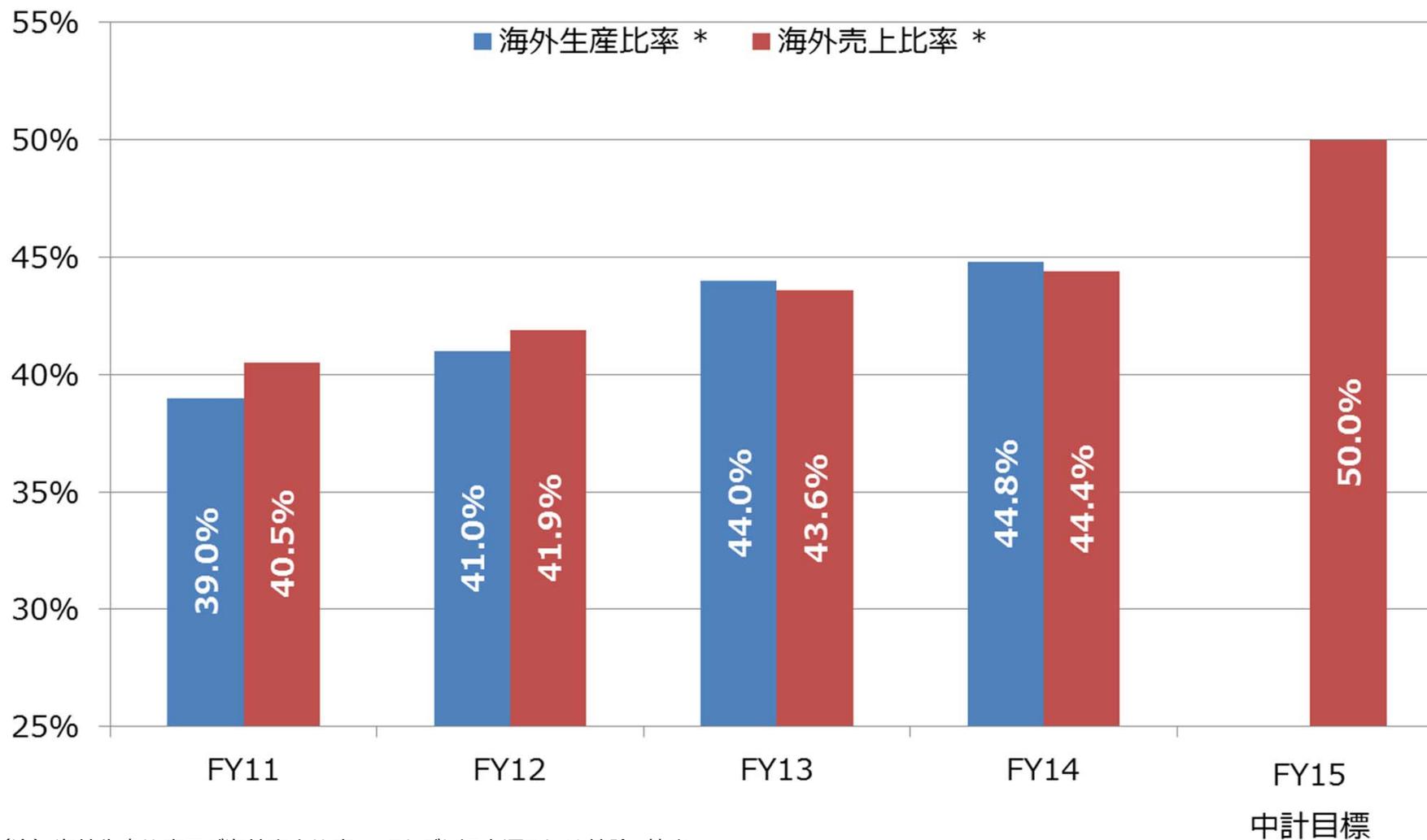
- ： 光ケーブル工場を新設 (2014年2月)

#### メキシコ

- ： LANソリューション製品の販売会社を設立  
(2014年8月)

# 生産及び売上の海外比率の推移

## ■ 生産及び売上ともに海外比率上昇

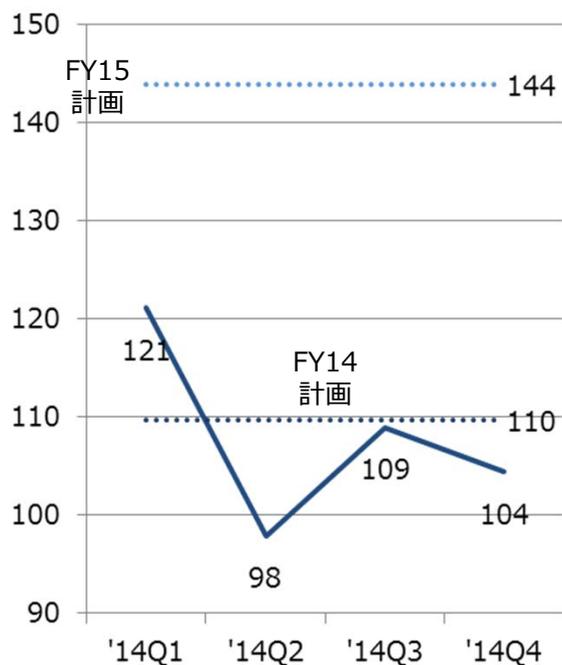


(注) 海外生産比率及び海外売上比率は、それぞれ旧古河スカイを控除し算出

# 戦略製品と売上数量トレンド

## ITLA/FBT

デジタルコヒーレント通信用集積型信号光源



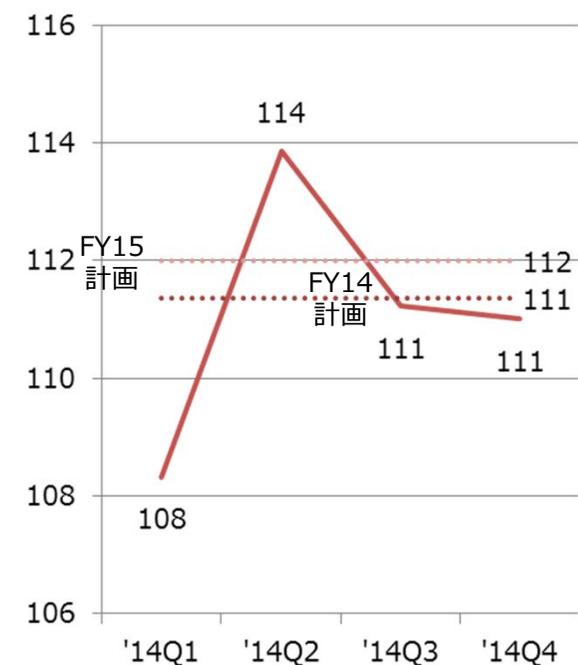
## BSS

車載バッテリー状態検知センサー



## SRC

車載エアバッグ用コネクタ



(注：各製品とも'13Q4を100とする指数)

ご清聴ありがとうございました。

*Bound to*  *Innovate*